

美濃市立美濃小学校

A:学校行事型参観日+C:講演会型

令和元年6月20日(木)開催

「子どもたちに叱ることはいっぱいあるけれど、ほめることは難しい」という親さんの悩みが、今回の講演会に繋がりました。講話では、近くの方とペアになって行う体験活動を通して、具体的な「ほめ方」と「ほめ言葉」について学びました。「日常にあることをほめること、“ありがとう”がほめ言葉になること等も分かり、有意義な時間になったと主催者は振り返られました。



近くの方とペアになり様々な体験をしました。

- ◇テーマ 魔法の「ほめ方」と「ほめ言葉」
- ◇講師 橘 英樹氏(ほめちぎる人材育成コンサルタント)
- <主催者の願い>

普段から子どもたちと接している保護者の、『子どもたちをほめること』の悩みについて、具体的な「ほめ方」や「ほめ言葉」を体験しながら学ぶ機会にしたい。



【保護者の感想(一部抜粋)】

- ・子どもが今朝、自分で起きて来て、昨日疲れて寝てしまい出来なかった宿題をやっていた。つい当たり前と思っていたが、もっと全力でほめてあげれば良かった。
- ・視野を広くすること、いろいろな見方があることを再確認できた。「当たり前」の中からほめるポイントをたくさん見つけたいと思う。
- ・話を聞いているつもりで、他事をしていたので、ちゃんと向き合って話を聞いてあげようと思う。子どもに「ありがとう」を伝えたい。

＊学びポイント＊

- <保護者の参加を促す> 参観日との同日開催とされたこと、講演会の内容や講師の案内を事前に知らせることで、保護者の参加を促されたこと。
- <保護者が学びたいことをテーマに> 保護者が抱く子育てについての悩みを学びたいテーマに決定→テーマに沿った講師を依頼→実際の子育てに活かす具体的な方法を学ぶ機会にされたこと。

関市立武芸小学校

C:講演会型 関市人権講座

令和元年7月11日(木)開催

夏休み前の地区懇談会に合わせて、情報モラルについて学ぶ講座を開催されました。実際の事例を基にした講話から、情報機器の利用トラブルを回避するために親としてできることや、見守りのポイントなどを学びました。「うちの子に限って」という言葉は当てはまらないと話された役員さんの言葉が印象的でした。



ネットの向こう側を想像して。わが子がどんな使い方をしているのかを知ってほしい。



- ◇テーマ 情報モラルについて理解し、子どもの人権を守る大切さを学ぶ
- ◇講師 丹羽 恭子氏(関警察署 生活安全課)
- <主催者の願い>

子どもをインターネットの被害から守るため、またその加害者にさせないために、情報モラル等について正しく理解するとともに、我が子(地域の子)の人権を守ることの大切さを学びたい。

【保護者の感想(一部抜粋)】

- ・具体的な事例から、危険なことだと気づかないまま、いつの間にか事件に巻き込まれる恐れがあることがよく分かった。小学生の今はまだ早いかなという考えがあったが、親子でしっかり考えていかなければならないと思った。子どものことに関心をもち、しっかりと話し合える関係づくりをしていきたい。
- ・親が知らないところに潜む恐ろしさを、親がまず知らないといけない。ゲーム、スマホを与える時考えていきたい。
- ・子どもの年齢が上がるにつれ、ネットで様々な情報に触れる機会が増え、本当に怖いと思った。親もしっかり危機感をもっていないといけないと思った。

＊学びポイント＊

- <多くの保護者が来校する機会を捉えた同時開催> 夏休み前に「子どもを守る」という願いに沿った2つの活動を開催し、保護者が子どもの生活について関心を高める機会にされたこと。
- <地域の実態を知る講師を依頼> 具体的な事例からの講話は、身近で切実な問題として参加者に届き、これからどうするか?を考えた感想が多く寄せられたこと。



☆バックナンバーは「中濃県事務所HP」からダウンロードできます。

令和元年 10月発行
中濃県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育担当:後藤
〒501-3756 美濃市生櫛 1612-2
TEL: 0575-33-4011 内線 210
E-mail: q01656@govt.pref.gifu.jp

さわやかな風に乗って金木犀の香りが漂う季節になりました。今月号では、関市で開催された研修と、体験活動型(給食試食会や親子ヨガ)・講演会型・子育てサロン型など、様々な学習形態で開催された家庭教育学級の様子を紹介し、それぞれの園・学校ならではの工夫があります。ご覧ください。

令和元年度 関市家庭教育学級重点指定校夏期研修

主 催:関市生涯学習課

- ◇8月 1日(木) 板取川中学校区 [板取川中・板取小・洞戸小]
- ◇8月23日(金) 桜ヶ丘中学校区 [桜ヶ丘中・桜ヶ丘小・田原小・南ヶ丘小]
- ◇8月24日(土) 富野中学校区 [富野中・富野小]



関市では、平成28年度より家庭教育学級の更なる充実を図るため、重点指定校を対象に夏期研修会を開催されています。今年度は3会場で約120名の保護者と教職員の方が参加され、「家庭教育学級・学級経営に必要なホンの交流【エンカウンター】」について学びました。

〈内 容〉

- 研修Ⅰ:「子どもたちの成長に喜びを実感できる岐阜県」
(講師) 中濃県事務所 振興防災課 社会教育担当
- 研修Ⅱ:「参加者がイキイキと話し出す、魔法の「場」創り」
～保護者会・学級経営で使いたいアクティブラーニング型ファシリテーション～
(講師) ヒューマンハート ^{ひゃくたけ だいすけ} 百武 大介 氏



板取川中学校区



桜ヶ丘中学校区



富野中学校区

【参加者の感想】

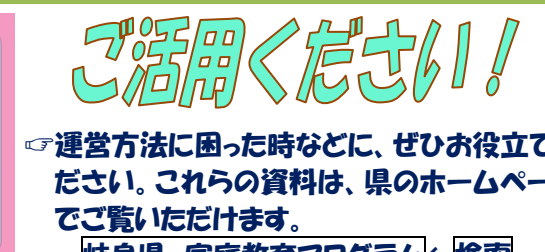
- ・聴す→ゆるすという読み方であるように、相手の話を傾聴すること、そして相手を受け入れ、承認することがとても安心を与えられるものだ実感した。日ごろの子育てにぜひ取り入れていきたい。(保護者)
- ・改めて子どもとの関わりの見直しができた。子どもが成長するにつれて会話が減ってきたと感じ始めていたが、こちらの受け入れ方にも問題があるのでは・・・と少し角度を変えて接してみたいと思う。(保護者)
- ・これからの時代を生きる児童を育てるために、私たち教師も発想の転換が必要だと感じた。子どもたちの力をどう伸ばすかは永遠の課題だと思うが、一人一人がもっている力を伸ばすのは周りの大人の接し方次第だと思った。今日の先生のお話は大変勉強になった。(教職員)



「みんなで子育て」家庭教育学級運営マニュアル



「みんなで子育て」Ⅱ～Ⅳ家庭教育プログラム(乳幼児期編、小・中学校編、次世代編)



岐阜県 家庭教育プログラム <検索>

取組の工夫・良さを学びたい！取組紹介 Part, 1

郡上市立北濃小学校

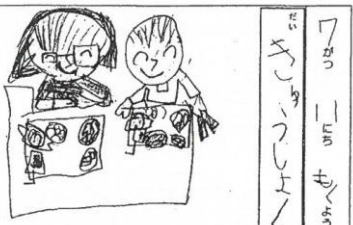
令和元年7月10日（水）開催

A:学校行事型参観日+B:体験活動参加型救急救命法講習会
・試食会+C:講演会型食育講話

「朝ごはんはどうして大切なのか？」という食についての話を、養護教諭からお聞きしました。時々、親子で確認するように顔を見合わせる微笑ましい姿もありました。

試食会メニューは『郡上かるた献立』の◎「日本の郡上の鮎」にちなんだ、鮎のから揚げでした。

「お母さんたちは、好き嫌いも考えてご飯を作っています。」と話された役員さん。



◇テーマ 食育講話・給食試食会

◇講師 兼松 亜佑子 養護教諭

＜主催者の願い＞ 親子で食事の大切さや栄養について学ぶ。また、給食を一緒に食べることで、毎日の給食について知る機会にしたい。

【保護者の感想(一部抜粋)】

- ・朝ごはんの大切さを教えていただいたので、家でも改めて話し合い、モリモリ食べてくれるようになるといいな。
- ・給食は思ったよりたくさん食べていた。家ではあまり食べないものも食べていて驚いた。
- ・給食は栄養のバランスも考えてあって、家の食事でも考えないといけないと思った。

＊学びポイント＊

＜親子席の工夫＞ 親子が隣同士に座ることで、我が子の様子を近くで見ながら、食について一緒に学び、日頃の食事について振り返ることができたこと。

＜学校行事との同日開催＞参観日、救急救命法講習会と同日開催とし、保護者の来校回数に配慮しながら、参加を促す工夫をされたこと。

た	か	く	か	○	
で	り	あ	あ	ほ	
す	ま	か	あ	く	
が	し	ま	ま	け	
お	た	ま	ま	い	
い	が	ま	ま	い	
い	だ	ま	ま	い	
か	い	ま	ま	い	
っ	い	ま	ま	い	
か	い	ま	ま	い	
っ	い	ま	ま	い	
か	い	ま	ま	い	
っ	い	ま	ま	い	
か	い	ま	ま	い	
っ	い	ま	ま	い	

【学級通信より】

関市立安桜小学校

A:学校行事型参観日+D:子育てサロン型

令和元年6月22日（土）開催

「声かけから深める家族の絆

一日々成長する子どもたちの応援団になろうー」

という今年度の活動方針に基づいて、『声かけ』をテーマに子育てサロンを開催されました。保護者と先生方が交流する貴重な機会にされました。

◇テーマ 子育てサロン「あさくら」～やる気を伸ばす魔法の言葉さがし～
＜主催者の願い＞

子どもへの声掛けについて、同じ悩みを抱える保護者が、先生を交えて気軽に語り合える機会にしたい。また、サロン型で家庭でのコミュニケーションに役立つ和やかな交流になるようにしたい。

【保護者の感想(一部抜粋)】

- ・共感できる話がたくさん聞けて参考になった。
- ・イライラを冷たい言葉でぶつけてしまわないように努力したい。
- ・他の親御さんや、先生方の経験談を聞くことができ、自分だけじゃないんだと心が軽くなった。
- ・子どもへの接し方は、親の一呼吸で変わってくる。自分が変われば、子どもも変わってくると思った。

（会の進行をされた成人学級長さん）

【事後アンケートの結果より】

＜参考になる話が聞けた…
たくさん・少しは聞けた 合わせて 100%＞
＜参加してよかった…
とても良い・良い 合わせて 100%＞

お茶でカンパイ！
から交流スタート。

参加者の方々の心が
少しでも軽くなり、自身が
変わるひとつのきっかけ作
りができた。

＊学びポイント＊

＜毎年開催の取組に＞6月の参観日に合わせ、毎年 PTA 成人学級が計画した取組を実施されている。特に、子育てサロン「あさくら」は、先生方の理解と協力もあり、学校の特色ある取組になっていること。

＜参加したい！行って良かった！につながる工夫＞

- ①先生方や保護者が参加しやすい時間帯（下校後）
- ②別室での託児開催（子ども連れでも安心）
- ③家庭教育プログラムを活用した役員さん進行
- ④テーブルネーム、名札、お茶・茶菓子の準備、交流時の「3つの約束」提示で和やかな雰囲気づくり
- ⑤事後アンケートで振り返りなど、開催への工夫があること。

失敗はこの声かけ
なっていて
一歩いて
朝はしからない

（板書にまとめられた
全体交流のキーワード）

活用されたプログラムを紹介！

13 言葉の力（～小学校高学年～）

ワークシート1

「家族だから言葉にしなくても分かり合える？」

こんなことありませんか？

山田家の朝7時。みんな大忙しです。お母さんは家事も仕事もテキパキこなします。一方まことくんは妹の面倒も見てくれるやさしい4年生の男の子。食事の用意もよく手伝ってくれますが、ちょっぴりマイペースでおちよこちゃん。お母さんは時々いららすることあります。

あ、まことくん！手が滑って、ミルクの入ったカップを床にガッシャーン！とんでもない状態に！

それを見たお母さんは思わず、「何やってるの！この忙しい時に！」と怒鳴ってしまいました。まことくんは泣きました。

ワーク1

まことくんのお母さんのような経験はありますか？
焦っている時やイライラしている時、ついとげとげしい言い方をしてしまった経験を交流しましょう。

ワーク2

イライラを抑えて、冷静に対応できたことはありますか？ない場合はあなた自身が「理想とする」対応の仕方を交流しましょう。

P3には進行案
P4・5・6には関連資料が
付いています。

ワークシート2

ワーク3 【ペアでなりきりパフォーマンス】
お母さんとまことくんの役割を演じてみましょう。（1回目：お母さんは怒りを感じさせ、2回目：まことくんの気持ちを尊重して）

まことくん：（半泣き状態で）ワースト、こぼしちゃったよ…
お母さん：
まことくん：
お母さん：

アドリブも入れて、「なりきりパフォーマンス」にチャレンジ！

◇他の方の意見をメモしましょう◇

P2 ワークシート2は
ワーク3【なりきりパフォーマンス】と、
振り返りができるシートに
なっています。

今日気が付いたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？

今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。

親も忙しくて余裕がなく、心ない言葉をかけてしまうこともあるね。でも、子どもの立場に立って考えてみると、どうだろう？ 昔どこかで聞いた「家族だからこそ言わなくても分かるとか」というのは本当なんだろうか？ 子どもには、愛情溢れる言葉がけが必要なんだよ。遠い言葉の持つパワーを有効活用して欲しいものだね。

社会福祉法人 瑞雲児童福祉会 大中保育園

B:体験活動参加型親子ヨガ

令和元年7月20日（土）開催

講師の掛け声に合わせて、ちょっと難しいポーズにも挑戦。親子で協力しながら様々なポーズを完成させました。「お父さん、お母さん頑張ってる！」という、お子さんの応援もありました。親子ヨガを通じて、親子でふれ合い、じっくり関わる時間がもて良かったと役員さんは振り返られています。

◇テーマ 親子ヨガ

◇講師 光藤 さやか氏

(JAHA 協会認定ベビーヨガ&ママヨガ(産後ヨガ)インストラクター)

＜主催者の願い＞

今年度のテーマ「楽しく学んで健康な子育て」に沿って、体を動かす活動を取り入れた親子ヨガを実施し、親子でふれ合える機会にしたい。



「カブトムシダー！」

ストーリーに合わせて次々とポーズをとる皆さん。
最後は全員でつながりました。

【保護者の感想(一部抜粋)】

- ・普段、仕事に家事にとなかなか子どもといっばいふれ合うことができなかつたけれど、今日はおもいっきりふれ合うことができ、さらに体を動かすことでリフレッシュもできた。
- ・ヨガは「つながり」を意味しているそうで、今回心と体、親と子といったつながりも深まったように感じた。

＊学びポイント＊

＜講師への具体的な依頼＞ 1～6歳の全園児と保護者を対象に、どの年齢でも楽しく活動できる動きをあらかじめ講師に依頼されたこと。

＜年間テーマに沿った活動を取り入れる＞ 活動の願いが明確で、参加者が「親子のふれ合い」を意識して楽しく活動されていたこと。